

小柴先生ノーベル賞受賞おめでとうございます

永野元彦

先生の受賞理由から、今後スーパーカミオカンデで次世代の受賞も期待できるものであり、先生のお喜びはひとしおの事と存じます。先生の受賞の源と多くの人が認めるのは、先生は何処へでも、誰のところへも労をいとわず出かけ、自説を説得し実現していくパワーだろうと思います。しかし自説を説得するためでなくとも、先生はいろんなところへ出かけて行って雑談をしながら、種を蒔き、若い人に刺激を与えるその裾野は実に広いものと感服しております。その一端をこの場を借りてご紹介したいと思います。

私が東京大学原子核研究所の空気シャワー部に助手として採用された当時、先生はまだエマルション部におられて、よくふらっと空気シャワー部に現れては話をしていたされました。その当時は計算機もなく、解析を手伝ってくれる若い女性が空気シャワー部に多かったせいとは思いますが、ついでに若かった私に声をかけては、修士時代の仕事やその当時やっていた仕事についてねほりはほり聞かれ、大いに困惑もし、刺激も受けたものです。

このように若手でも誰にでも気安く話しをし、刺激を与えてくれるのが、小柴先生のやり方かと思えます。その後私がドイツのキール大学で実験をしていた時にも、小柴先生はハンブルクの DESY に滞在されていましたが、わざわざキール大学まで尋ねてきて下さり、実験を見ながら議論をし、励ましてくれたのを思い出します。

宇宙線研究所の明野観測所で最高エネルギー宇

宙線の観測 (AGASA) を計画し、いろいろの研究会でその意義と支援を訴えた時、そのエネルギー決定について最も辛らつに批判されたのは小柴先生だったかと思えます。それでいて宇宙線研究所に来られた時はふらっと部屋に立ち寄られ、私たちの計画を批判されるわけではなく、いつものように日頃暖めている計画を話していかれました。その後再びドイツのカールスルーエにしばらく滞在した時、やはり小柴先生はハンブルクに滞在しておられ、カールスルーエまでベンツを走らせて会いにきてくださいました。批判はしても心のどこかにとどめていて、思い出してくださるのだなと、先生の暖かい一面を感じたものです。

先生の口癖は、「いつもいくつかのテーマを暖めていなさい」ということかと思えます。その時は、太陽近傍で 10^{17} eV 近傍の宇宙線重原子核が光分解し、壊れた原子核が地球大気に突入し、二つ、或いは三つの目玉の空気シャワーを観測できる。それを観測すれば宇宙線の核組成がわかるという、先生の年来の提案をぶっていたされました。いくら言っても腰をあげないなと思っておられるのかもしれない。

これからは講演その他でますますお忙しくなれると思いますが、ご健康に留意され、各所の研究室にフラッと現れては、若い人と議論をして行って下されたらと思います。

(福井工業大学)